

地域住民の憩いの場である「ふれあいの公園」を整備



に関わっている公園や広葉樹の森が整備されています。武内小学校改築を記念した「平成の森」では、学校敷地内での植林活動や、授業の中で毎年3回の下刈りの実習指導を行い、また、普段から地域住

民が憩いの場所として利用している武内神社境内の「ふれあいの公園」では、下刈り、枝払い、清掃活動を行っています。

■まず間伐材を出荷

武内町親林会は、台風災害の復興を目指して結成された林業研究グループですが、復旧に取り組みながらも山林から収入を得るような積極的な森林施策を目指しています。会長であり、指導林家でもある桑原眞茂留さんを中心として会員所有の山林で間伐講習会を実施し、毎年80㎡以上の間伐材を出荷しています。現在、間伐材の販売価格は、スギ1㎡当たり1万円前後と僅かに採算が採れる程度ですが、会では、間伐技術の講習会を通じて研鑽を積み重ね、少しでも収入が確保できる間伐を目指し

ています。

■「山の手入れをしよう」と呼びかける

武内町親林会も発足して15年が過ぎ、会員の所有林の間伐もほぼ終えることができました。これからは、町内のまだ手入れがなされていない森林を解消することが目標です。

平成20年度から、吸収源対策森林施策推進活動緊急支援事業を取り入れて、会員21名で町内の森林所有者を一軒一軒回って、個々の所有者の山に対する気持ちを聞いて意識啓発を行うなど、草の根の地域活動を展開しました。

また、親林会独自でモデル林を造成し、武内町内の森林所有者を対象とした間伐及び作業道開設の講習会を実施しました。



「平成の森」の下刈り風景

会員は、これらの活動に手応えを感じ、未手入れ森林の解消を目標に「地域の森林づくり」の先頭に立って活動を活性化させようという意気込んでいます。

(佐賀県生産振興部林業課 専門技術員 洲上武俊)



間伐を終えた武内町親林会の皆さん

## WE LOVE forest ! 林業研究グループ

# 武内町親林会

佐賀県武雄市武内町

会員数	21名
設立	平成5年3月

「平成の森」で小学生の保護者と植林を進める会員たち



■台風被害の復興を目指した地域活動を契機として発足

武内町親林会が活動している武雄市武内町は、佐賀県の西部に位置し、玄界灘に注ぐ松浦川水系と有明海に注ぐ六角川水系の分水嶺となつている赤穂山を控えていることから、玄界灘と有明海を結ぶ交通の要衝として栄えてきました。平成3年の台風17号、台風19号は佐賀県全域の山林に甚大な被害をもたらし、ここ武内町の山林も壊滅的な被害を受けました。この台風被害に対して地元の有志が自発的に被害木の後片付けの推進活動を進め、特に「武内町親林会」の前身となる「武内町住みよい町

をつくる会」が旗振り役として積極的に関わってきました。平成5年3月に台風被害の早期復旧と台風強い森林づくりを目指して会の名称を「武内町親林会」と変え林業研究グループとして発足しました。

■町の「憩いの森」の管理

武内町親林会のモットーは、自身の「武内町住みよい町をつくる会」の理念を受け継ぎ、森林を通して住みよい緑の武内町を造っていくことにあります。武内町内には、武内町親林会が手入れや造成

地域の森林所有者対象の間伐講習会

